

第**126**期 報告書

2018年4月1日から2019年3月31日まで





プロフィール

1971年8月20日生

早稲田大学理工学部機械工学科卒業

2002年4月 当社 入社

2004年9月 当社 営業本部営業統括担当部長

2005年6月 当社 四輪事業部四輪技術営業部長

2007年6月 当社 執行役員

2008年4月 DAIDO SITTIPOLO CO.,LTD. (タイ子会社) 代表取締役社長

2010年4月 D.I.D ASIA CO.,LTD. (タイ子会社) 代表取締役社長

2010年9月 DAIDO INDIA PVT.LTD. (インド子会社) 代表取締役社長

2011年6月 当社 取締役 兼 技術開発本部長

2013年6月 当社 常務取締役

2015年6月 当社 代表取締役副社長

2019年6月 当社 代表取締役社長 (現任)

株主の皆さまへ

平素は格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございます。このたび代表取締役社長に就任いたしました新家啓史でございます。

大同工業は1933年の創業以来、「伝える」「はこぶ」機能の提供を出発点とし、新たな事業と技術領域の拡大に挑戦してまいりました。2018-2020年度の中期経営計画においては、『切り拓こう たゆまぬ挑戦で未来を！』をスローガンとして掲げており、国内外の垣根を越えた成長市場・成長分野の取り込みや、新規事業の創出と新商品の市場投入が命題であると強く認識しております。大同工業の未来を切り拓くため、社員と共に全力で挑戦してまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

2019年6月

大同工業株式会社
代表取締役社長

新家 啓史

Q これまで取り組んできた仕事について教えてください

2002年に当社に入社してからまず私が思い描いたのは、タイ子会社をASEANの中核的拠点として機能させることでした。当社が1996年にタイに進出して以降、諸先輩方の英知と努力により、タイの二輪車市場における当社製品の信頼と実績は揺るぎないものとなりましたが、ASEANという巨大市場攻略のためには、圧倒的なコスト競争力と販路の拡充が強く求められたため、タイ子会社の機能を一層強化する必要があると考えたのです。

2007年のタイ着任後は、主に生産革新活動や人材育成に勤しみ、同時にASEAN各国を飛び回り販売網の構築に努めました。その後は、当時より旺盛な需要と一層著しい成長が期待されたインド二輪車市場の攻略のため、インド子会社の立ち上げにも携わるなど、タイ子会社の強化と並行して力を注ぎました。その結果、ご尽力頂いてきた先輩方の指導、また取引先に恵まれたこともあり、タイ子会社は製造・販売の両面においてASEAN市場全体をカバーする中核的拠点へと成長を遂げると共に、インド子会社では販売網の確立のみならず二輪車用チェーンの一貫生産実現までの礎を築くことが出来ました。

日本に帰任して以降は主に開発部門を管掌し、小型電気自動車の開発・製造メーカーとの連携による研究開発活動や、海外の先端研究開発機関へのエンジニア派遣など、新製品・新技術開発への投資を拡充してきました。最近では、長野県の㈱スギムラ精工と業務及び資本提携を行い、次世代自動車分野における精密部品事業の立ち上げに向け、高度な金属プレス技術（高度塑性加工技術）の習得に関する取り組みを推進してまいりました。

これまで国内外で培った多くの経験は、日本をマザー工場として再編し、新たな事業領域・技術領域へ踏み込み出そうとする当社の経営戦略においても活かせるものと考えております。



Q 今後の経営戦略について教えてください。

凄まじいスピードで変化する昨今の世界市場に対応するためには、グローバルな人材育成と柔軟な企業体質の構築が必要不可欠です。その実現に向け、「将来を見据えた人事制度の革新」、「主に自動車分野における新規事業拡大」及び「生産管理業務の効率化」を目的とする組織改正を実施いたします。

また、グローバル展開としては、二輪事業における新たな販路の獲得を目指し、昨年パキスタンの企業と技術援助契約を締結した上で当社ブランドの二輪車用チェーンを同国内で供給して参りましたが、この度、現地で合併会社を設立するに至りました。現地企業の販売網と当社グループの製造ノウハウとのシナジー効果で、パキスタン市場における一層のシェア拡大を期待しています。

一方の国内においては、生産効率向上並びに能力拡大のための工場設備の刷新、新規事業の拡大を見込んだ新工場建設など、積極的な設備投資によってマザー工場の再編を加速させております。

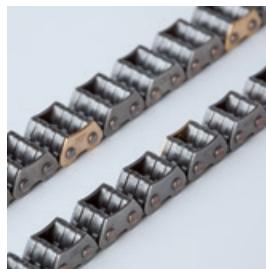
今後も、成長市場・成長分野における顧客ニーズを的確かつタイムリーに取り込みつつ、「高度塑性加工技術を活かした精密部品」や「既存技術の進化による軽量化技術・製品」など、競争力のある新商品開発を軸とする新事業の創出に向けた取り組みを、グループ一体となって強力に推進してまいります。

四輪車用

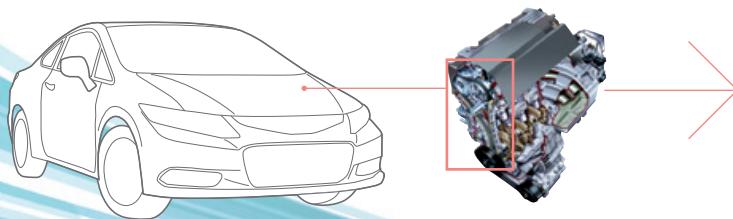
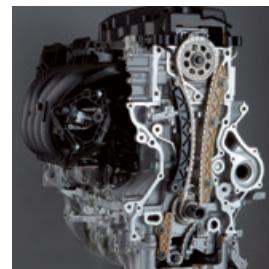
当社独自の特殊表面処理技術で、優れた耐摩耗性・疲れ強さ・高い静音性を実現した四輪車エンジン内チェーン。

[主な納入先] HONDA、TOYOTA、DAIHATSU、MAZDA、SUBARU、SUZUKI、第一汽車

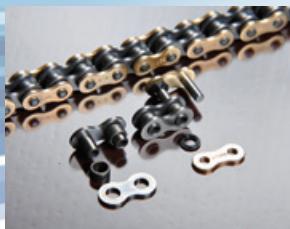
■ タイミングチェーン



■ チェーンシステム



■ ドライブチェーン



■ カムチェーン



■ 鉄リム



■ アルミリム



D.I.D

モノづくりへの情熱で世界

二輪車用

「D.I.D」ブランドの高い信頼性と実績により、世界No.1の評価をいただく二輪車用チェーンは、多くの完成車メーカーに純正品として採用いただいております。

[主な納入先] HONDA、YAMAHA、SUZUKI、KAWASAKI、BMW、DUCATI、HARLEY-DAVIDSON

高度化・多様化するニーズに、コンサルティング能力と開発力、固有技術で、お客様の環境に合わせたソリューションを提供しています。

動力伝動・搬送用チェーン



[主な使用用途]

- ・立体駐車場
- ・フォークリフト
- ・建設機械・農業機械
- ・食品加工機械
- ・印刷機械・包装機械

産業機械用チェーン (静音チェーン)



コンベヤシステム

■ 粉粒体・環境関連設備向け エプロンバケットコンベヤ



■ 製鉄関連設備向け コイルコンベヤ



事業領域

に感動をお届けするヒューマンテクノロジー

私たちは創業以来、「伝える」「はこぶ」をテーマに、世界のニーズを満たす技術の徹底追求を行い、高機能、高品質な製品をお届けしてきました。

その根底には、人にふれあう技術、人とともに伸びる技術という思想が貫かれています。

ものづくりは人づくり、そして情熱。私たち大同工業グループは、絶えず人と技術を原点に置き、ひたむきに「D.I.D」ブランドへの期待と信頼にお応えしています。

■ いす式階段昇降機 (楽ちん号)



■ 車いす用階段昇降機 (JDエスカル)



福祉機器

豊かで快適な福祉社会を実現するため、使う人の立場に立ったユニバーサルデザインに基づく福祉機器の開発を通じて、バリアフリー社会に貢献しています。



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申しあげます。

このたび代表取締役会長に就任いたしました。在任中は格別のご懇情を賜り、誠にありがとうございます。後任の新家啓史に対しまして、私同様特段のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

さて、第126期事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の営業が終了いたしましたので、報告書をお届けし、ご報告申しあげます。

2019年6月

代表取締役会長 新家 康三

事業の経過及び成果

当期における当社グループを取り巻く環境は、海外においては、米中貿易摩擦による中国経済の減速や英国のEU離脱問題の影響等はあるものの、欧米先進国をはじめとして世界経済は底堅さを保ち回復基調で推移しました。国内においても、企業の設備投資や個人消費の持ち直し等を背景に、景気は依然堅調を維持しております。

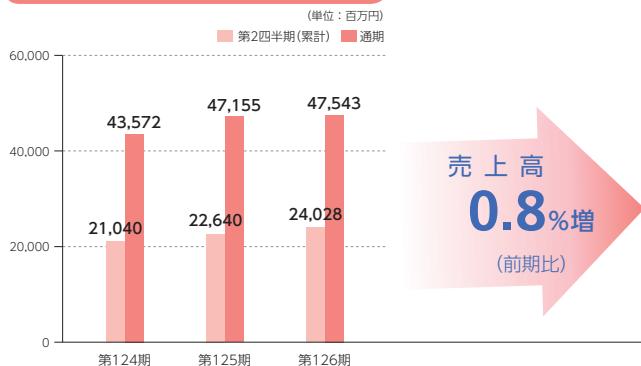
このような状況のもと、当社グループにおきましては、フィリピンにおける組立生産の開始や、インドにおいて二輪車用チェーンの生産能力の増強を行う等、海外拠点の強

化を進め、グローバルな生産活動と拡販活動を推進してまいりました。国内においては、生産活動の改善や新製品の開発を進めるとともに、高度塑性加工技術による事業領域の拡大を進めてまいりました。

その結果、当期連結累計期間の売上高は、475億43百万円（前期比0.8%増）となりました。

収益面につきましては、生産効率の改善やコスト削減に努めるとともに、資産の効率化等を目的として当社が保有する上場有価証券の一部を売却し、特別利益として投資有

売上高



営業利益



価証券売却益を計上したものの、鋼材・副資材価格、運賃及び電力料等の高騰や新興国通貨安の影響等を受けたことに加えて、継続して営業収益の悪化となっている連結子会社の一部の固定資産（設備機械等）について特別損失として減損損失を計上いたしました。

その結果、連結営業利益は14億40百万円（前期比50.5%減）、連結経常利益は16億12百万円（前期比49.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は8億44百万円（前期比40.3%減）となりました。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、日本を含む世界経済の成

長はやや減速感はあるものの、米国内需要の底堅い成長や個人消費は底堅さを保つと見込まれます。しかし、各国の金融政策の不確実性による影響や、中国経済の成長率低下など、引き続き予断を許さない状況が続くと予想されます。

本年、当社は『切り拓こう たゆまぬ挑戦で 未来を！』をスローガンとする第11次中期経営計画（2018～2020年）の2年目となります。ものづくり企業としての原点に立ち返り、既存商品の競争力を徹底的に磨き上げながら事業と技術領域の拡大に向けて挑戦を続け、多様な人財を育成し活用することで、今後も発展を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

第127期(2020年3月期)連結業績予想

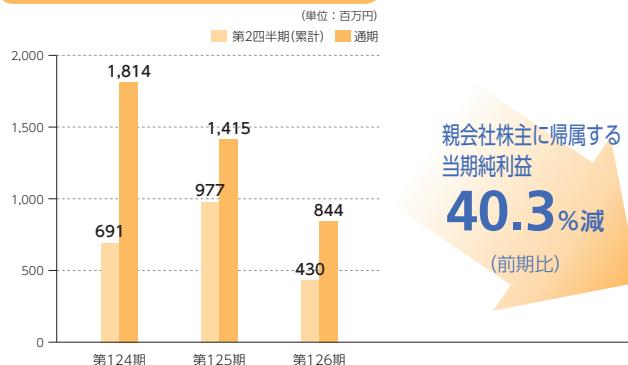
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
第2四半期（累計）	24,500	1,100	1,300	800
通期	49,000	2,100	2,500	1,600

経常利益



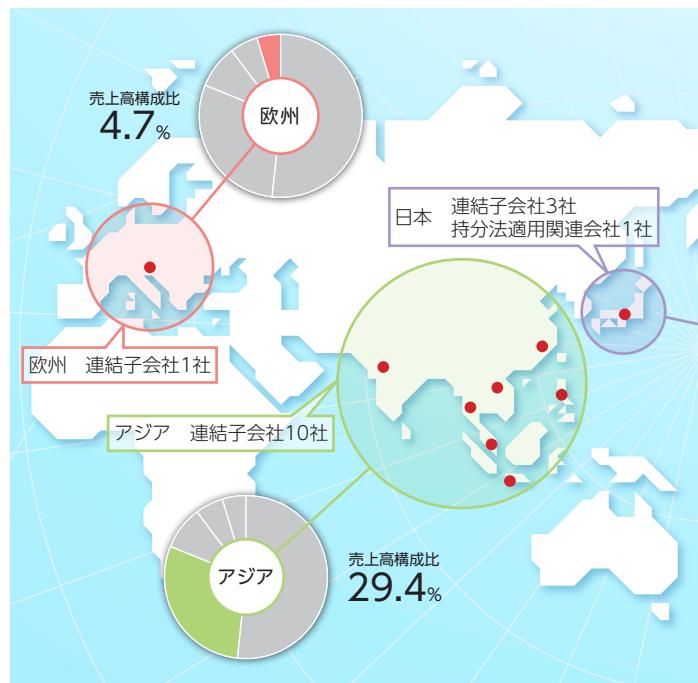
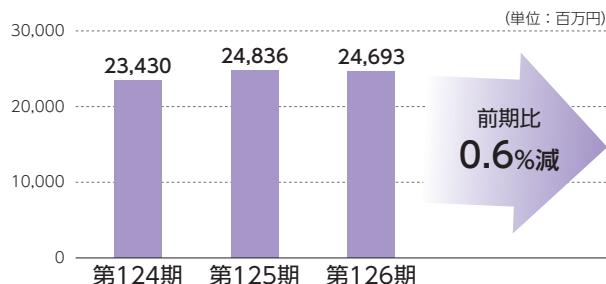
親会社株主に帰属する当期純利益



所在地別セグメント（当社及び連結子会社の属する国または地域を基準としたもの）

● 日 本

付加価値の高い産業機械用チェーンや海外のプラント向けの生産設備の受注が好調に推移したものの、二輪車用アルミリムにおいて、前年同期に新機種の上立により売上が大きく伸びていたことに加えて完成車メーカーの生産工場移転に伴う生産減少の影響を受けたこと等により、売上高は246億93百万円となりました。



● ご参考 ●

仕向地別セグメント

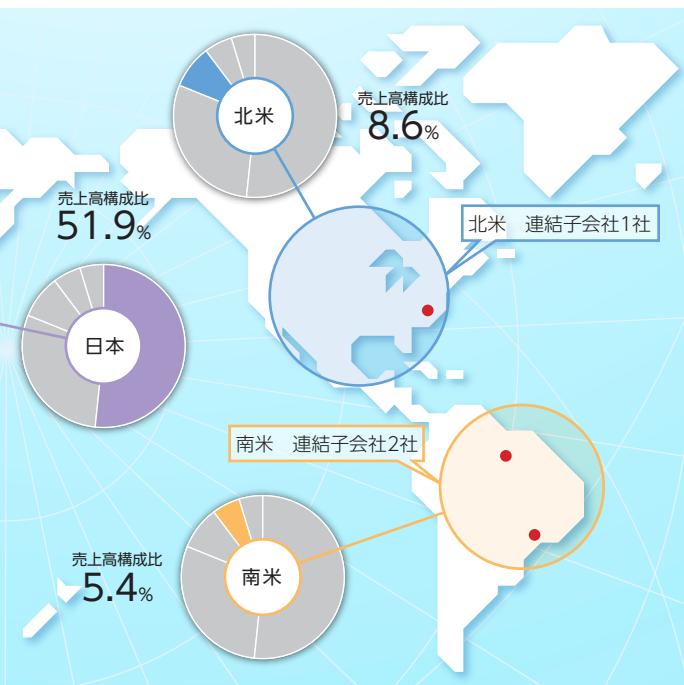
(顧客の属する国または地域を基準としたもの)

	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比
日 本	22,441	47.2	0.2%減
ア ジ ア	15,034	31.6	0.1%増
北 米	4,101	8.6	0.1%増
南 米	2,807	5.9	2.3%増
欧 州	2,656	5.6	4.4%増
そ の 他	501	1.1	88.9%増

● 欧 州

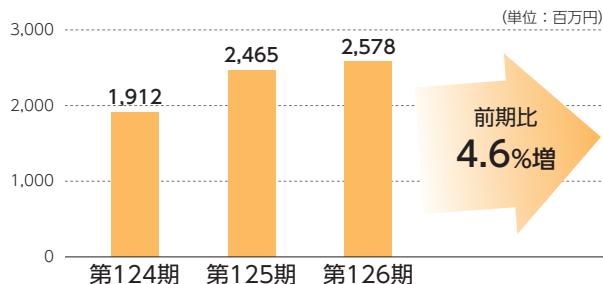
補修市場向けにおいて、付加価値の高い二輪車用チェーンの受注が西欧・北欧向けを中心に好調に推移したことから、売上高は22億10百万円となりました。





● 南米

ブラジルリアル安の影響を受けたものの、産業用・農業用チェーンの受注が好調に推移するとともに、二輪車用チェーンにおいて完成車メーカー向けの受注が好調に推移したことから、売上高は25億78百万円となりました。



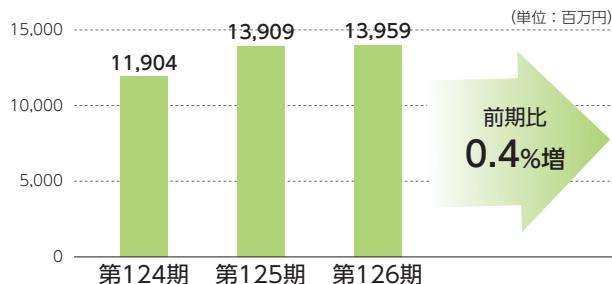
● 北米

四輪車用チェーンにおいて、当社製品採用車種の販売不振の影響を受け受注が低調に推移したものの、産業機械用チェーンの受注が内需拡大を背景に堅調に推移したこと等により、売上高は41億1百万円となりました。



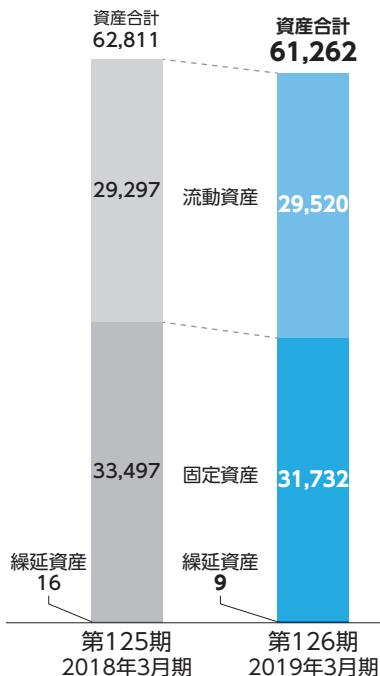
● アジア

補修市場向けの二輪車用チェーンの受注が中東向けにおいて低調に推移したものの、中国において日系自動車メーカー向けの四輪車用チェーンの受注が好調に推移するとともに、中国及びタイの搬送関連設備の受注が堅調に推移したこと等から、売上高は139億59百万円となりました。



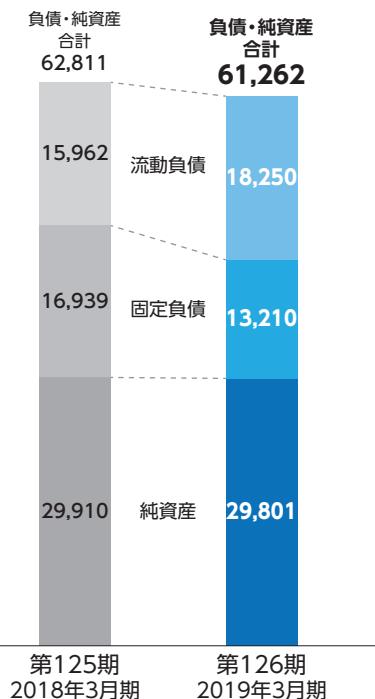
●資産の部

単位：百万円



●負債及び純資産の部

単位：百万円

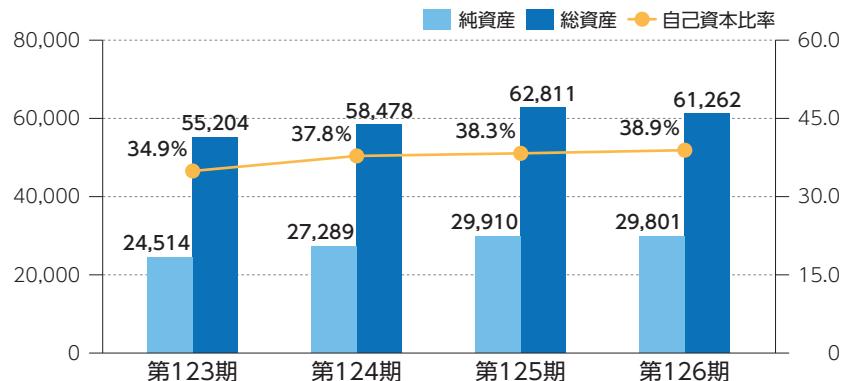


●ポイント解説

総資産は、棚卸資産、有形固定資産等が増加したものの、現金及び預金、投資有価証券等が減少したことにより、前期末と比べ15億49百万円減少しました。負債につきましては、支払手形及び買掛金、長期借入金、繰延税金負債等が減少したことなどにより、前期末と比べ14億40百万円減少しました。なお、流動負債及び固定負債の大幅な増減は、1年以内に償還が予定されている社債を固定負債から流動負債に振り替えたことによるものです。純資産は、資本金、資本剰余金、利益剰余金が増加したものの、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が減少したことなどにより、前期末と比べ1億9百万円減少しました。

●純資産・総資産・自己資本比率

単位：百万円

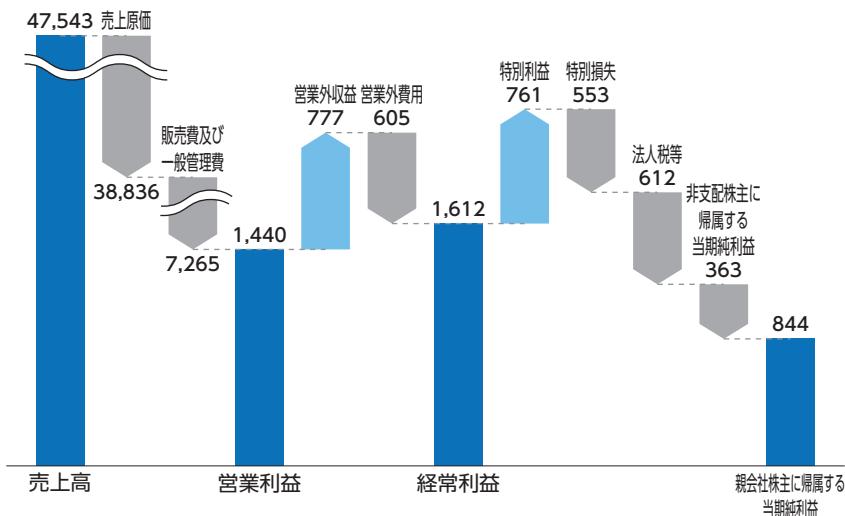


●ポイント解説

自己資本比率は、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定等が減少したものの、公募増資による資本金、資本剰余金の増加等により、前期末と比べ0.6ポイント増加の38.9%となりました。

● 損益の状況 (2018年4月1日～2019年3月31日)

単位：百万円



● ポイント解説

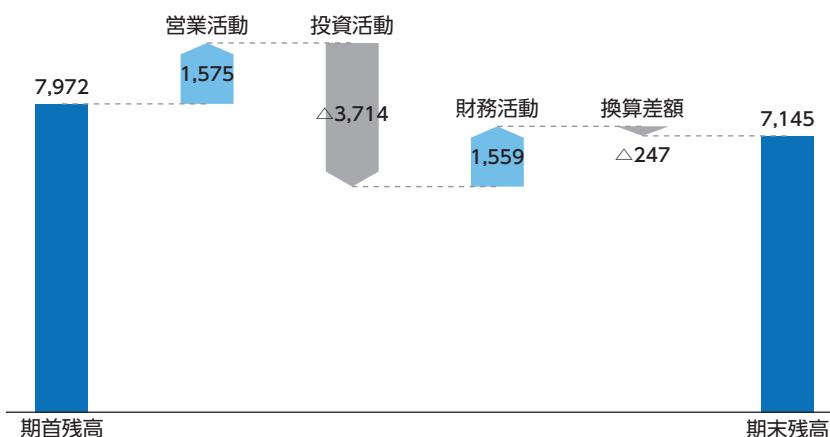
売上面では、欧州補修市場向け二輪車用チェーンや、中国での四輪車用チェーン、南米における産業用チェーンの受注が好調に推移した結果、前期を上回りました。収益面では、生産効率の改善やコスト削減に努めるとともに、上場有価証券の一部を売却し、投資有価証券売却益を計上したものの、鋼材・副資材価格等の高騰や新興国通貨安の影響等を受けたことに加えて、経営環境の変化等を受け継続して営業損益の悪化となっている連結子会社の一部の固定資産について特別損失として減損損失を計上した結果、前期を下回りました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
第126期 2019年3月期	47,543	1,440	1,612	844
第125期 2018年3月期	47,155	2,912	3,205	1,415

● キャッシュ・フローの状況 (2018年4月1日～2019年3月31日)

単位：百万円



● ポイント解説

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益、減価償却費を計上し、退職給付に係る負債及びその他の流動負債が増加した結果、15億75百万円の獲得となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により、37億14百万円の使用、財務活動によるキャッシュ・フローは、株式の発行による収入により、15億59百万円の獲得となりました。

会社の概況 (2019年3月31日現在)

商号	大同工業株式会社
設立年月日	1933年5月25日
資本金	35億3,651万円
従業員	747名(個別) 2,286名(連結)

(注) 上記従業員数は就業人員であり、臨時雇用者(定年後再雇用社員、派遣社員等)は含んでおりません。

事業所 (2019年3月31日現在)

本社・本社工場	石川県加賀市熊坂町イ197番地
福田工場	石川県加賀市大聖寺下福田町ソ20
動橋工場	石川県加賀市動橋町中22-1
東京支社	東京都中央区日本橋人形町3-5-4 (ユニゾ人形町三丁目ビル)
札幌営業所	札幌市東区北18条東18-1-3
栃木営業所	宇都宮市東宿郷4-2-20 (KDビル)
浜松営業所	浜松市北区三方原町1130-2
名古屋営業所	名古屋市中村区名駅南4-9-7
大阪営業所	大阪市中央区南船場2-12-12 (新家ビル)
西日本営業所	福岡市博多区博多駅南1-3-6 (第三博多借成ビル)
熊本営業所	熊本県菊池市旭志川辺1074-1

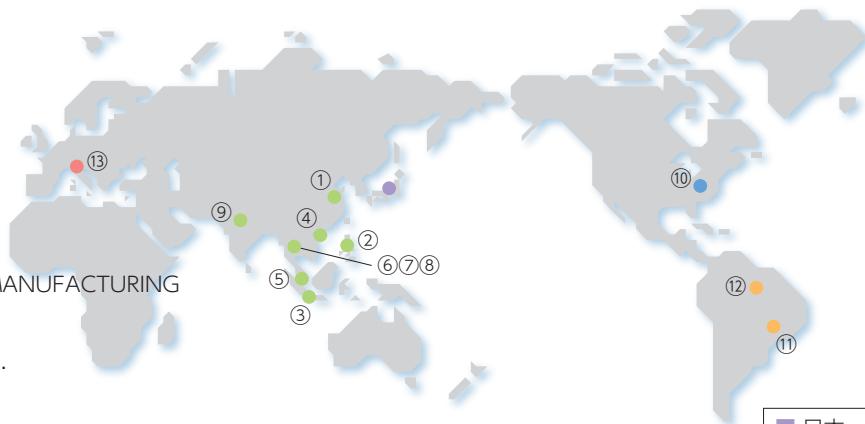
グローバルネットワーク (2019年3月31日現在)

国内ネットワーク

- 株式会社大同ゼネラルサービス
- 株式会社大同テクノ
- ガイド建設株式会社
- 新星工業株式会社
- 株式会社月星製作所
- 株式会社和泉商行

海外ネットワーク

- 中国 ① 大同鏈条(常熟)有限公司
- フィリピン ② D.I.D PHILIPPINES INC.
- インドネシア ③ P.T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING
- ベトナム ④ D.I.D VIETNAM CO., LTD.
- マレーシア ⑤ DID MALAYSIA SDN. BHD.
- タイ ⑥ DAIDO SITTIPOL CO., LTD.
- タイ ⑦ D.I.D ASIA CO., LTD.
- タイ ⑧ INTERFACE グループ (3社)
- インド ⑨ DAIDO INDIA PVT. LTD.
- アメリカ ⑩ DAIDO CORPORATION OF AMERICA
- ブラジル ⑪ DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA.
- ブラジル ⑫ DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA.
- イタリア ⑬ DID EUROPE S.R.L.



- 日本
- アジア
- 北米
- 南米
- 欧州

会社役員の内訳 (2019年6月25日現在)

会社における地位	氏名
代表取締役会長	新家康三
代表取締役社長	新家啓史
専務取締役	立田康行
常務取締役	菊知克幸
常務取締役	清水俊弘
取締役	澤保
取締役	棚橋健一
常勤監査役	福田治
監査役	笠松靖男
監査役	東森正則
監査役	廣田信也

- (注) 1. 取締役澤保氏、棚橋健一氏は社外取締役であります。
 2. 監査役笠松靖男氏、東森正則氏、廣田信也氏は社外監査役であります。
 3. 当社は、澤保氏、棚橋健一氏、廣田信也氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届出ております。

株式の状況

発行可能株式総数：32,000,000株

発行済株式総数：10,924,201株（自己株式1,207株含む）

株主数：4,467名

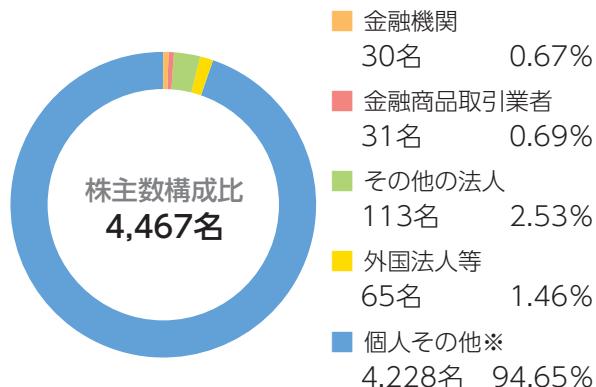
(注) 2018年7月18日を払込期日とする一般募集による新株式の発行1,300千株、及び2018年8月15日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連して行った第三者割当による新株式の発行190千株により、発行株式の総数が1,490千株増加しております。

大株主（上位10名）

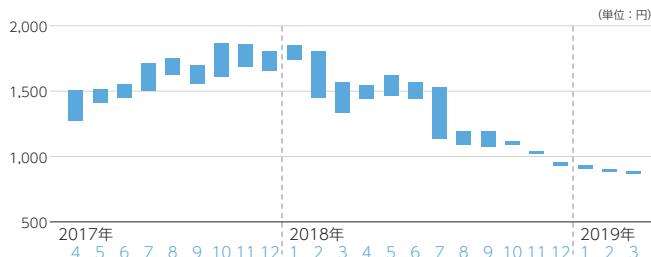
株主氏名及び名称	持株数	持株比率
株式会社 飯田	547千株	5.01%
株式会社 北國銀行	456	4.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	438	4.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	407	3.73
日本生命保険相互会社	275	2.52
加賀商工有限会社	262	2.41
大同生命保険株式会社	259	2.38
株式会社 みずほ銀行	258	2.36
株式会社 三菱UFJ銀行	258	2.36
新家 萬里子	257	2.36

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

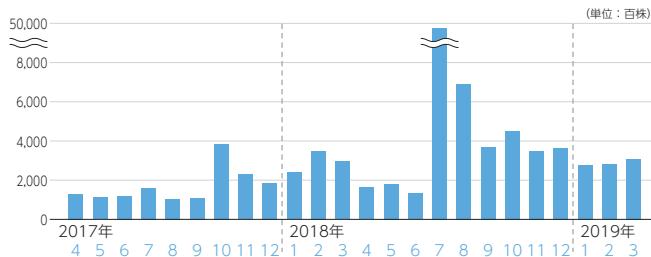
株式分布状況



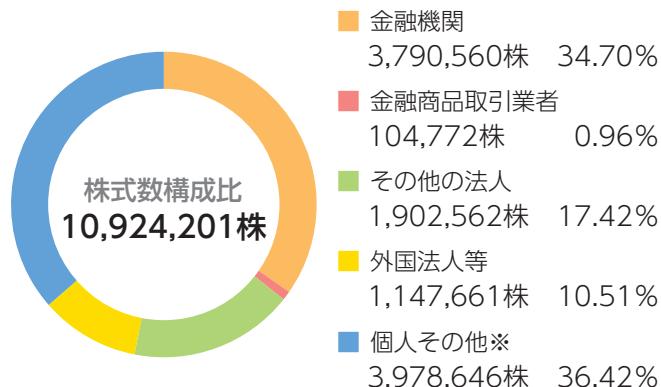
株価（高値・安値）の推移



出来高の推移



※1 2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。
 ※2 2017年9月以前の株価については、株式併合後に換算して記載しております。



※ 個人その他には、政府・地方公共団体及び自己名義株式を含む。

D.I.D PHILIPPINES INC. チェーン組立を開始



▲工場外観



▲チェーン組立機

当社は、これまでに東南アジア及び南アジア地域において、タイ、インドネシア、インド、ベトナム、マレーシアの5ヵ国に9社の連結子会社を展開し、同地域における旺盛な二輪車用部品の需要の取り込みを積極的に行ってまいりました。

この度、同地域での成長戦略の一環として、フィリピンにおける日系二輪車メーカー各社への品質・コスト・納入の一貫サービスを提供する体制を構築することを目的に、2018年1月にD.I.D PHILIPPINES INC.を設立し、2018年10月、二輪車用チェーンの組立生産業務を開始いたしました。

今後の見通しとしまして、2020年に売上高4億ペソ（約8億2千万円）を計画しております。また、上記の一貫サービス実現によるフィリピン国内での売上・シェアの拡大のみならず、同地域における二輪車市場向けビジネス拡大を更に加速させてまいります。

D.I.D PHILIPPINES INC. 会社概要

所在地：フィリピン国バタンガス州サント・トマス市
ファーストフィリピン工業団地

事業内容：二輪車用チェーン等の製造・販売

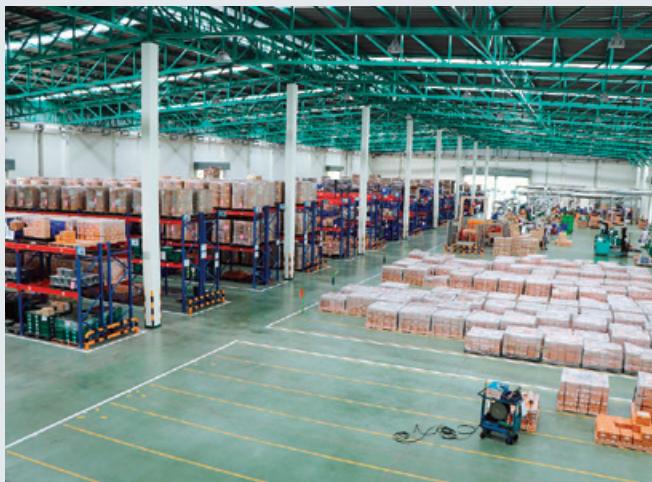
生産能力：年間約513万本（約340万台分）
（予定）

従業員数：40名（2019年3月現在）

資本金：1億2千万ペソ（約2億6千万円）

出資比率：当社100%

DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 新出荷センター完成



▲新出荷センター内部

2018年12月、当社のタイにおける生産拠点であるDAIDO SITTIPOL CO., LTD. (以下、DS) に、新出荷センターが完成しました。

DSにおいて、タイの営業拠点との間で重複していた梱包業務等を一元化し、チェーンやキット（チェーン+スプロケット）の梱包から製品の保管、出荷までの業務を新出荷センターにて一貫して行うことで、大幅な作業効率の改善を果たしました。

今後はタイにおいて、チェーン以外の二輪車部品へと事業領域・技術領域の拡大を図るべく、スプロケットの生産ライン増強、冷鍛加工やめっき加工の内製化、治工具部門の設置等を計画しており、新出荷センターの完成によって余裕が出来たDS工場内のスペースを活用し、再配置を推進していく予定です。

DAIDO INDIA PVT. LTD. 生産能力を強化

インドは2017年度に二輪車の生産・販売台数が2,000万台を超え、需要が増え続けており、二輪車部品メーカーにとって魅力的な成長市場です。

このような状況のもと、当社グループではインドにおける旺盛な二輪車需要に応えるため、インド子会社であるDAIDO INDIA PVT. LTD. にて、2019年1月に工場を増築いたしました。

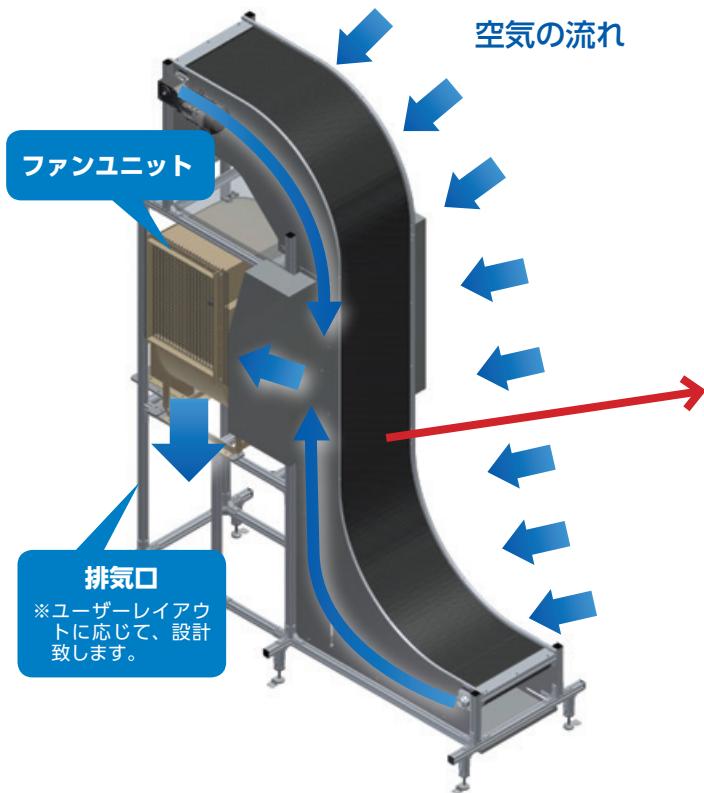
増築した工場内には、2019年6月に部品加工プレス機や熱処理炉等の大型設備の設置が完了する予定であり、従来の二輪車チェーン製造能力が年間450万m（組立のみのものも含む）であったのに対し、新設備設置後は一貫生産で年間720万mの製造が可能となる見込みです。また、この先もチェーン組立機等の設備投資を引き続き行っていく予定です。

今後は設備の増強を進めるとともに、人材育成や品質向上、コストダウンなど、顧客満足度を高める活動を推進してまいります。



▲新規導入した熱処理炉

バキューム搬送コンベヤ EcoCuum[®]

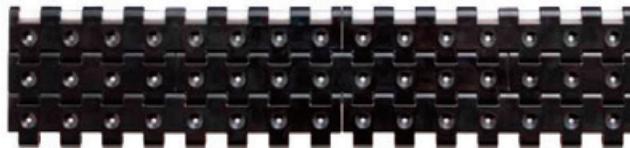


エコキュームとは

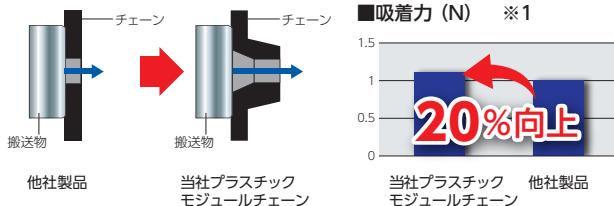
通常のベルトコンベヤでは基本的に水平又は緩やかな傾斜搬送しかできませんが、エコキュームは、プラスチックモジュールチェーンの隙間からファンにより空気を吸引し、負圧を生み出すことによって軽量の搬送物を吸着させることで、垂直・ターン・急傾斜など多様なレイアウトに対応できます。

プラスチックモジュールチェーン

バキューム搬送に最適な特徴を備えたチェーンです。



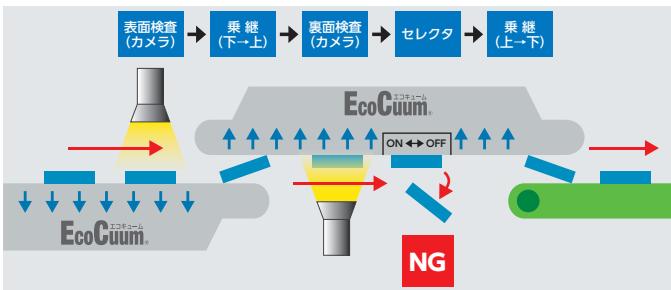
特徴



※1 本データは弊社独自のテストにより算出しておりますので、条件によって異なる場合があります。

レイアウト例

▼エコキュームによる製品検査識別



搬送物例

	搬送物 アルミ缶 (350ml) 寸法mm (縦×横×高さ) φ50×123	重量 (g) 15		搬送物 発泡カップ 寸法mm (縦×横×高さ) φ68×107	重量 (g) 14
	搬送物 樹脂板 寸法mm (縦×横×高さ) 400×600×1	重量 (g) 350		搬送物 箱状食品 寸法mm (縦×横×高さ) 200×100×25	重量 (g) 200
	搬送物 レトルト食品パウチ 寸法mm (縦×横×高さ) 160×125×15	重量 (g) 200		搬送物 1Lペットボトル 寸法mm (縦×横×高さ) φ82×260	重量 (g) 38

Auto Packing Machine

自動カートニングマシン

カートニングマシンとは

自動で製品パッケージ（カートン）の組立、蓋閉めを行う機械のことです。

①カートン投入

②組立

③製品封入

④完成

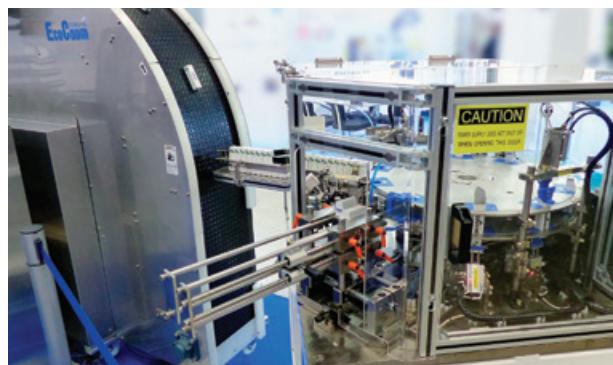
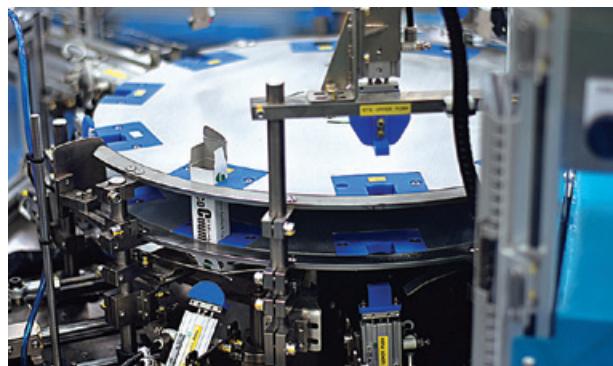


特徴

- ①カートンの組立から製品供給まで可能
(標準は手動による製品供給)
- ②多品種の Karton サイズ及びロット生産に適合
- ③カム機構で動作するためスピード調整が簡単
最大速度：1.2秒/カートン (50pcs/min)
- ④カートンは200枚まで一度に供給可能
(投入口の寸法変更可能)
- ⑤治具交換で多品種の Karton に対応
オプション：自動製品供給

エコキュームとセットでの拡販活動

カートンをカートニングマシンで自動で組立てた後、エコキュームで垂直搬送・背面搬送を行うという一連の包装・搬送工程を行うデモ機を作成し、17頁で紹介しているTOKYOPACK2018をはじめとした各種展示会や、お客様を当社へお招きしての実演により、多数の引き合いをいただいております。



2018年
9月

DIDスポンサーチーム契約ライダーが FIMトライアル世界選手権12連覇を達成！

DIDスポンサーチームであるホンダ・レーシング（以下、HRC）の契約ライダーであるトニー・ボウ選手が、FIMトライアル世界選手権において12年連続年間チャンピオンを獲得しました！

HRCが使用するマシン「Montesa COTA 4RT」には、当社のドライブチェーン「520ERS3 SDH G&G 102RB」、フロントリム「21x1.60VL2」及びリアリム「18M/CxMT2.15VLT」が使用されております。この栄冠は、チームとライダーの研鑽の賜物ですが、この結果に当社製品が少なからず寄与できたことは大変光栄である同時に、世の中にDID製品の高い性能と信頼性を証明することができました。引き続き、DIDサポートライダーの更なる活躍を期待ください！

2018年
10月

TOKYOPACK2018に出展

場所：東京ビッグサイト

2018年10月2日～10月5日に開催された「TOKYOPACK2018（東京国際包装展）」に出展いたしました。

当展示会は包装資材、包装機械から包材加工機械、食品機械、関連機器類、環境対応機材、物流機器類等に至る生産・包装・流通技術の最新情報発信の場として世界有数の国際総合包装展であり、総来場者数は209,049人を記録し、大々的なPRを行うことができました。

当社ブースでは、2017年にリリースしたバキューム搬送コンベヤ（エコキューム）や、グローバル商品として当社タイ子会社（Interface Systech Co.,Ltd）の製品であるカートニングマシンを目玉として展示し、多くのお客様に関心を持っていただくことができました。また、各種高性能ローラチェーンも展示し、品質や性能をアピールするとともに、アンケートにてお客様が求めている性能や困りごとなどのご意見を頂くことができました。

今後も拡販活動に注力するとともに、顧客満足度を高められるよう努めてまいります。



株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月開催	
単元株式数	100株	
単元未満株式の 買取制度	1単元 (100株)	単元未満株式 (1から99株)
基準日	定時株主総会 3月31日	剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日	
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
(電話照会先)	☎ 0120-782-031	
(インターネットHP URL)	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html	
公告の方法	当社ホームページに掲載(電子公告) https://www.did-daido.co.jp/jp/index.html	
上場取引所	東京証券取引所市場第一部	
証券コード	6373	

お知らせ (株式事務のご案内)

■ 各種手続き・ご照会について

株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなります。住所、氏名の後変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取請求などのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は、口座を開設されている証券会社までご連絡ください。

■ 特別口座について

株券電子化の実施までに証券保管振替制度をご利用されなかった株式につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に開設された特別口座に記録されております。特別口座で管理されている株式についてのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は特別口座管理機関である三井住友信託銀行までご連絡ください。なお、三井住友信託銀行の全国本支店でもお取次いたします。

■ 単元未満株式の買取制度について

当社では証券市場における取引単位を1単元(100株)とさせていただいておりますので、単元未満株式(1から99株)の株式は証券市場でのお取引ができません。当社単元未満株式の買い取りをご希望される株主様は、お取引のある証券会社(特別口座が開設されている株主様は、三井住友信託銀行)までお問い合わせください。なお、買取請求に関する手数料は無料となっております。

■ 未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<https://www.did-daido.co.jp/>



投資家の皆様に財務情報や最新トピックスをご提供しております。



より詳細な財務情報をご希望の方は、
当社ホームページ [投資家向け情報] をご覧ください。

大同工業 投資家向け情報

検索

<https://www.did-daido.co.jp/jp/ir/index.html>

株主さま向け
アンケート

株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。



<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6373

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。
QRコードは株式会社デンソーウェアの登録商標です。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-6779-9487 (平日 10:00~17:30)
[e-株主リサーチ事務局] MAIL:info@e-kabunushi.com

